

## 高知県香美市のシロハラホオジロ *Emberiza tristrami* の詳細と四国地域からの記録

谷岡 仁\*

A detailed report on the Tristram's Bunting *Emberiza tristrami*  
from Kami City, Kochi Prefecture and  
records in the Shikoku District

TANIOKA Hitoshi \*

**Key words:** Tristram's Bunting, *Emberiza tristrami*, Shikoku, Kochi Prefecture

シロハラホオジロ *Emberiza tristrami* はロシアのアムールおよびウスリー地方から中国東北部で繁殖し、冬季は中国南東部に渡る。日本には少ない旅鳥または冬鳥として渡来し、日本海の離島では毎春少数が通過する。他地域では、北海道・本州・九州・南西諸島で記録があるが少ない（五百沢, 2004）。日本鳥類目録改訂第7版においては生息域の情報として四国の情報はなく、本州ではまれな旅鳥である IV (irregular visitor), 九州では迷鳥である AV (accidental visitor) と評価されている（日本鳥学会（編）, 2012）。

筆者は高知県香美市内において本種と思われる個体を確認し、概要を日本野鳥の会高知支部報で公表した（谷岡, 2011）。ここでは、確認時の詳細や同定の詳細な情報も加えて正式に報告するとともに、四国地域の他県における確認状況についても文献と聞き取りにより整理した。

確認個体は1羽であり、2011年1月31日12時15分ごろ香美市香北町川ノ内（33° 41.873' N, 133° 46.300' E, 標高350m 付近）（図1）にて確認し、写真撮影した（図2）。観察地は物部川の支川である川ノ内川の川沿いの道路沿いで、周辺にはスギ（*Cryptomeria japonica*）とヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）の植林が広がっている。観察個体は道路東側の植林伐採跡地のススキ（*Miscanthus sinen-*

*sis*）の草地から飛び出し、隣接する道路西側のスギの植林に入った数羽のホオジロ類のうちの1羽である。この個体は撮影中にスギの植林内に飛び去った。

本個体の頭部は黒く、頭中線、眉斑および頬線は白く、耳羽の後方には小さな白斑がある。国内でみられるホオジロ類の中で喉が黒いのは、全身が黒いクロジのオスを除外すれば本種のオスのみである。高野（2007）と叶内（2010）に従えば、この個体は頭部の黒い部分に褐色味があり、白い部分に黄色味があったことからオス成鳥の冬羽と

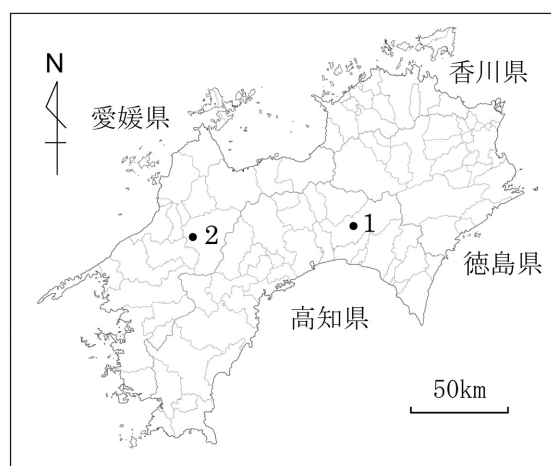


図1. 1 シロハラホオジロの確認位置, 2 四国における既往確認位置.

\*〒782-0031 高知県香美市土佐山田町東本町4-2-17  
4-2-17 Higashihonmachi, Tosayamada, Kami 782-0031, Japan



図2. 高知県香美市で2011年1月31日に観察されたシロハラホオジロ。

考えられる。観察は短時間であったものの、カシラダカに比較して体サイズは同程度であるが体格がよく、丸みをおびた体型が印象的であった。本種の鳴き声について、一般に地鳴きは「チッ」「ツッ」で声のトーンはカシラダカとミヤマホオジロの中間的な感じでやや金属的とされているが（真木・大西，2000），観察時の地鳴きはカシラダカの地鳴きと同様の鳴き声に聞こえた。

本種は数少ない旅鳥として春秋の渡りの時期に日本海側に渡来したものが観察された例が多く、太平洋側に位置する高知県内での確認記録は無い（日本野鳥の会高知支部，私信；高知県保健環境部（編），1995）。四国地域においては愛媛県久万高原町由良野の森（33° 64' N，132° 88'E 付近）で2007年11月1日にメス幼鳥が標識調査で確認されている（山本，2010）。香川県と徳島県での本種の報告は無い（岩田，私信；東條，私信）。このように，四国地域における本種の確認は本確認と愛媛県での報告の2例しかない。また，ともに比較的内陸部での確認である。しかしながら，ともに比較的内陸部でかつ近年の情報であり，今後，四国内の類似した環境での継続的な調査が望まれる。

#### 謝 辞

本報をまとめるにあたって，岩田篤志氏と東條秀徳氏には四国におけるシロハラホオジロの既往報告の有無についてご教示いただいた。山本栄治

氏と山本貴仁氏には愛媛県内での確認情報を提供していただいた。日本野鳥の会高知支部の皆様には，高知県内の確認状況をご教示いただくとともに種の同定にあたって助言をいただいた。ここに記して深く感謝申し上げる。

#### 引用文献

- 五百沢日丸. 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京, 383pp.
- 叶内拓哉. 2010. 東京都初記録のシロハラホオジロ雄成鳥冬羽. Birder, 24 (11): 46-47.
- 高知県保健環境部 (編). 1995. データベース高知県の野鳥(1986年～1993年). 高知県, 444pp.
- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京, 654pp.
- 高野伸二. 2007. フィールドガイド 日本の野鳥 増補改訂版. 財団法人日本野鳥の会, 東京, 374pp.
- 谷岡 仁. 2011. シロハラホオジロの観察記録報告. しろぺん, (291): 2.
- 日本鳥学会 (編). 2012. 日本鳥類目録 改定第7版. 日本鳥学会, つくば市, 438pp.
- 山本栄治. 2010. 愛媛県久万高原町由良野の森で確認された県内での記録が少ない鳥類 (1). しこくこげら, (7): 22-23.

(原稿受理 2013年7月31日)